「狭い戸口」　2023年08月23日

「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸を叩き、『ご主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返って来るだけである。その時、あなたがたは、『ご一緒に食べたり飲んだりしましたし、私たちの大通りで教えを受けたのです』と言いだすだろう。しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不正を働く者ども、皆私から離れよ』と言うだろう。」（ルカ13：24～27）

主イエスは、町や村を巡って、神の国を宣べ伝えながら、エルサレムへと旅を続けられた。すると、ある人が「主よ、救われる人は少ないのでしょうか」と問いかけてきた。主イエスは、「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ」と応じられた。この言葉はマタイ福音書の「山上の説教」の中にある。「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道も広い。そして、そこから入る者は多い。命に通じる門は狭く、その道も細い。そして、それを見いだす者は少ない。（マタイ7：13～14）」続いて、「家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸を叩き、『ご主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返って来るだけである。」と言われた。この言葉は、マタイ福音書25章の「十人のおとめのたとえ」に関連している。十人のおとめが、灯を持って花婿を迎えに出ていた。五人の賢いおとめは、灯と一緒に壺に油を用意していた。五人の愚かなおとめは、灯は持っていたが、壺に油を用意していなかった。花婿は遅れて真夜中に来た。油を用意していなかった乙女は、灯が消えそうになったので、油を用意していたおとめに、分けてくれるように求めた。しかし、分けてあげることはできない、店に行って買ってきなさいと言われたので、買いに行った。その間に戸が閉められ、婚礼の祝宴が始まった。油を買って、戻って来たおとめは「御主人様、御主人様、開けてください（マタイ25：11）」と言った。主人は、「よく言っておく。私はお前たちを知らない（マタイ24：25：12）」と答えた。次の「その時、あなたがたは、『ご一緒に食べたり飲んだりしましたし、私たちの大通りで教えを受けたのです』と言いだすだろう。しかし、主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不正を働く者ども、皆私から離れよ』と言うだろう」という言葉は、「山上の説教」の中に関連節がある。「私に向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。天におられる私の父の御心を行う者が入るのである。その日には、大勢の者が私に、『主よ、主よ、私たちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をたくさん行ったではありませんか』と言うであろう。その時、私は彼らにこう宣告しよう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、私から離れ去れ。』（マタイ7：21～23）」

アブラハム、イサク、ヤコブ、全ての預言者たちは神の国に招かれ、祝福を受けているのに、自分は外に投げ出されているのを見て、泣きわめき歯ぎしりをするだろう。更に、人々は四方から来て、神の国の宴席に着く。主イエスは、「後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある」と言われた。ファリサイ派の人々は律法を守り、神に忠実であるから先に神に国に入ると豪語していたが、律法を守れないからと、差別、抑圧された人の方が先に神の国に入る。主イエスの福音は常識をひっくり返した逆説にある。